

議会だより

かみやま



案山子が賑やかに迎えてくれる、ほのぼの阿川の里

第4号

2010.1.15

12月定例会

発行／神山町議会 〒771-3395 徳島県名西郡神山町神領字本野間 100
tel. 088-676-1511(IP 2002) fax. 088-676-1100

新体制が決まる

昨年十二月十八日に開催された平成二十一年十二月定例議会において、議長・副議長・常任委員の議会構成が決まりました。町長提案の議選監査委員は満場一致で木元史幸議員に決まる。それぞれの役員の任期は、条例並びに町議会申し合わせによる二年としている。

議長に **山本 充良氏**

副議長に **森本 吉治氏**

議選監査委員に **木元 史幸氏**



山本 充良氏



森本 吉治氏



木元 史幸氏

ごあいさつ

この度不肖私、議員の皆様方の御推挙によりまして、議長の要職に就くことになりました。まことに身に余る光栄でございます。

私は、本町議会議員としてその経験も浅く、また、浅学非才でありまして、その器ではないことをよく承知いたしているのですが、ここに皆様方の御推薦を受けましたうえは、一身を挺してその御厚志にお報いする覚悟でございます。

さて、昨年秋の百年に一度の経済危機の影響により経済・雇用情勢は依然として厳しい局面が続いており、特に地域経済は更に悪化の傾向を強めております。

また、昨年は、「地域主権」の確立を掲げた新政権が発足したところではありますが、町村の十分に耳を傾け、思い切った地方分権を実行されることを大いに期待しているところであります。

このようなことから、議会の果たす役割はますます重要視されており、行政監視機能や政策提案機能を強化し、強い決意で議会活性化を図る必要があると考えております。

私たちは、町民の皆様方の声を大切にしながら「町民主体」の理念にたち、町民の方々が安心して暮らせる活力ある町づくりを目指し果敢に行動したいと思っております。

今後、更なる町民の方々の御指導、御協力賜りますようお願い申し上げます。

議長 **山本 充良**

常任委員会

委員会は、本会議の下審査機関であり、予備的審査機関であって、議会で審議される案件に、専門的知識や経験を生かし事前審査を行うための審議機関である。

議会の自主的な活動を推進するために、条例で「常任委員会」「特別委員会」を設置しています。

役員の任期は2年としている。

総務常任委員会

町政全般の総合的な計画などの調査研究、他に属さない事項についての審査をします。

委員長 細井 成富

副委員長 榎本 雄一

委員 森 克二

委員 山本 充良

産業建設常任委員会

農林水産振興、観光振興、道路などの産業振興に関することの調査研究及び審査をします。

委員長 相原 浩志

副委員長 河口 榮祐

委員 森 彦富

委員 森本 吉治

厚生文教常任委員会

保健、医療、福祉、教育、文化などの振興に関することの調査研究及び審査をします。

委員長 高橋 和男

副委員長 木元 史幸

委員 坂口 一之

委員 西崎 哲夫



河口榮祐議員

特別表彰受賞

昨年十一月十一日「NHKホール」(東京都)で開催された全国町村議会議長会創立六十周年記念大会において、永年町村議会議員として地域社会の発展及び住民福祉向上に尽くされた功績が認められ全国町村議会議長会から「特別表彰」されました。

全国で三五三名、県内で八名の方々が表彰されました。

おめでとうございます。今後さらなるご活躍をご期待申し上げます。

神山町議会 12月定例会

12月定例議会は10日から18日まで9日間の会期で開催しました。

提出議案は、補正予算5件、町道路線認定1件、条例の一部改正1件、監査委員の選任1件、計8件、いずれも原案どおり可決、承認しました。

議会からは、正・副議長選挙に関する件、常任委員会委員改選に関する件、請願など提案し、すべて選任同意、承認された。

一般質問では3議員が登壇し（6～7ページに掲載）それぞれ町の考えを質問しました。



12月 補正予算

一般会計	41億9,810万円 (2,116万円)
国民健康保険特別会計	11億1,790万円 (△5万円の減額)
簡易水道事業特別会計	1億5,241万円 (歳出節間の調整による増減0)
介護保険特別会計	9億8,712万円 (△35万円の減額)
後期高齢者医療特別会計	1億1,093万円 (113万円)

※上段は予算総額、()内は12月補正額

主な内容

- 県単治山工事 330万円
- 県単急傾斜地崩壊対策工事 506万円
- 県単砂防事業負担金 300万円
- 全国瞬時警報システム設置工事 850万円
- 後期高齢者医療広域連合納付金 118万円

町政等報告

平成二十二年度当初予算については、国の予算編成の動向を的確且つ迅速に見極め、適切に対処することにしていく。行財政全般に渡る改革を行うほか、全力を挙げて財源の積極的確保に努めると共に、事務事業全般に渡り効果性、必要性あるいは後年度の財政負担等を更に精査し、町債残高の抑制にも充分留意する中で、アウトソーシングの推進や思い切った施策事業の効率化などに取り組み、将来にわたり持続可能な健全財政の確立を念頭におきつつ、本町が目指すべきまちづくりに取り組んで参りたい。

新型インフルエンザ対策については、今後においても優先摂取対象者が一日でも早く摂取できるよう感染拡大の防止や重症化抑制に全力で取り組み。

養瀬トンネルが全線開通したことにより、地域経済の活性化、産業の振興、交流人口の増大等を図るべく取り組みを進めたい。

第四次神山町行政改革大綱、神山町行財政集中改革プランは、平成二十二年度から二十六年までの五年間をプランの期間とし、現在行政改

革推進委員会で策定中である。

国土調査は、平成十六年度から休止しているが、平成二十三年度から事業を実施するべく来年度準備業務を税務保険課固定資産税係で対応することとしている。

地域包括支援センターの業務については、指定管理あるいは部分委託、直営等、今後の運営について協議を進める。

地域活性化生活対策臨時交付金事業では、執行率が七三パーセントとなっているが、年度内執行に向け事務を進める。

神山町の鳥獣害の被害防止計画は、二十年度から二十二年度までの三年間、猪、猿、鹿、カラス、川鶴等を中心に進める。先の事業仕分けで地方の判断に委ねるということで、今後の国の動向等に注視して参りたい。

神山町の総合計画の策定状況は、住民千人を対象にアンケートを実施している。計画策定委員会、部会によるトップインタビュー、ヒアリングの実施を進めている。等々の報告があった。

諸報告

●平成二十一年定例監査結果報告並びに十、十一月分の例月出納検査

監査委員から町営バスの赤字経営対策、町税の徴収努力、有害鳥獣駆除対策、町道の管理等においての指摘並びに一般会計及び特別会計に属する出納状況を出納機関の諸帳簿、指定金融機関提出の収支日計表、証憑書類と照合した結果、過誤のないことを確認したことの報告があった。

●第五十三回町村議会議長会全国大会への出席

十一月十一日東京都のNHKホールで開催された第五十三回町村議会議長会全国大会に坂口議長が出席した。

●議員派遣

第五十回四国地区町村議会議長会研修会ほか十件について報告があった。

条例制定・改廃等

●町長等の給与の特例に関する条例の一部改正

給料の月額を町長二〇%、副町長一〇%、教育長五%引き下げて支給する特例期間を平成二十三年三月三十一日までとしたものです。

人事案件

●議長の辞職許可

坂口議長より議長の辞職許可願が提出され許可された。

●議長の選挙

直ちに議長選挙を行い山本充良議員が指名推薦により第三十三代議長に当選した。

●副議長の辞職許可

西崎副議長より副議長の辞職許可願が提出され許可された。

●副議長の選挙

直ちに副議長選挙を行い森本吉治議員が指名推薦により第三十七代副議長に当選した。

●議席の一部変更

議長、副議長の交代に伴い議場における議席が変更されたものです。

●監査委員の選任

議会選出の相原監査委員が退任し、木元史幸議員が新たに監査委員として選任同意された。

●常任委員会委員の選任

委員の任期が条例により二年となっており、各議員の委員会所属が変わりました。

●常任委員会委員長・副委員長の互選結果

各議員の委員会所属が変わったので委員長、副委員長を互選した結果の報告です。

議員発議案

●NPT再検討会議での積極的役割

を政府に求める意見書の提出

「核の傘」依存や「核密約」の固執を改め、非核三原則を遵守し、新政权が被爆国にふさわしい核兵器廃絶のイニシアチブを発揮することを求められている。二〇一〇年五月の核不拡散条約(NPT)再検討会議で核兵器禁止・廃絶条約を締結する合意がなされるよう、被爆国にふさわしい日本政府の積極的な取り組みを求める意見書の提出を議決した。

●議員派遣

平成二十一年度「第二回市町村議会議員セミナー」ほか三件について、議員を派遣することに決定した。

●委員会の閉会中の継続調査

各常任委員会、特別委員会における閉会中においても引き続き調査を行うと決定した。

その他

●町道路線の認定

主要地方道石井神山線の分岐より、下地団地に至る約三五〇メートルの間を「町道下地線」として認定するため議決した。

請願・陳情

●請願書

NPT再検討会議での積極的役割

を政府に求める意見書の提出について
提出者
非核の政府を求める徳島の会

代表世話人 中村観善
この件にきましては採択となりました。

●陳情書

非核自治体宣言(決議)を基とした平和行政を求める陳情書
提出者
日本青年学生平和友好祭徳島県
実行委員会

実行委員長 谷 慎也

●陳情書

消費税によらない最低保障年金制度の実現を求める陳情
提出者
全日本年金者組合徳島県本部
執行委員長 吉本茂則

●陳情書

二〇一〇年度の年金確保に関する陳情
提出者
全日本年金者組合徳島県本部
執行委員長 吉本茂則

●陳情書

乳幼児医療費助成の拡充を求める陳情書
提出者
新日本婦人の会徳島県本部

会長 中嶋蓉子

●陳情書

細菌性髄膜炎ワクチンの公費による定期接種化を早期に求める陳情書提出者

新日本婦人の会徳島県本部

●陳情書

電気設備工事・管設備工事の分離発注推進について陳情提出者

(社)徳島県設備業協会

会長 岡本敏雄

以上六件の資料の写し配付。

十二月定例会

一般質問



西崎 夫 議員

問

①ごみ野焼解消の行政対応について。三項目について質問。

(一)家庭ごみを焼却処分している実態の把握について、又把握の手法について。

(二)野焼解消についての今までの行政

対応は。

(三)野焼がなくなる原因理由を行政としてどの様にとらえているのか。

答

(一)の項目についてはどの家庭が野焼しているのかは把握していないが通報は時折ある。

一九年度三件、二〇年度三件、二一年度三件あった。ほとんどが匿名の電話通報である。

(二)の項目については、通報のあった場合現場確認をして、該当者に注意を促し改善を求める対応をしている。防災無線で本年度六、七、十一月に各一回周知、広報かみやまで年一回程啓発記事を掲載している。

(三)の項目についてはモラルの問題である。自分が良ければ良い。ごみ出しがめんどろである。ごみ袋に経費がかさむ。であろうと考えられる。

再問

(一) 項目について

通報とは別に私の知る限りでは野焼の件数は実際には多くあり、しかも地域集落住民の方々はその実態を詳しく把握している一面がある。

(三)の項目について

課長はモラルの問題だと片付けるが果してそうなのか。もっと詳しく検証すべきでは、知る限りでは、(イ)生活習慣として野焼を罪の意識もな

く堂々と生活の一部にしている家庭もある。

(ロ)少しだからとごみの選別ごみ出しが面倒だとする家庭。

(ハ)高齢者で車にも乗らず過疎で運搬を依頼する人もおらず、当日の朝のごみ出しが物理的にむづかしい家庭。

(ニ)ゴミ袋の経費負担が嫌な家庭。

(ホ)神山の地域集落は運命共同体として、相互扶助を原点到り立っている

ので、集落の人々は野焼の実態を詳しく把握しているながらも人間関係に懸念が生じることを恐れて通報等

が出来ない背景があり地域の自浄能力に期待することが出来ず、行政の実態把握の支障になっていると思う。

野焼の解消についてはさらなる原因理由の詳細な検証を前程に創意工夫を凝らした継続した啓発が必要でないか。防災無線や広報紙等の手法

で行政が如何に野焼の解消のために前向きに取り組まなければならない課題であることを住民の方々と共に

することが大切でないか。

問

②すだちの消費拡大のための、町長の具体的なトップセールスについて

徳島新聞で旧穴吹町出身で熊本県の企業グループの会長がすだちを年間二千箱以上、中元や歳暮にしてい

るとの記事が載った。この方は、東京、大阪、名古屋辺りの県出身企業

人が同様の取り組みをしたら大きな地域貢献が出来るのではとのことで

あった。町長は職務柄又町の首長として、多数の方々との名刺交換や職務を通しての町出身者や知人、県外

企業人と幅広い人脈や交流があるう

かと思うが、そうした方々に中元歳暮にすだちのトップセールスをして

答

すだちの消費宣伝については、あらゆる機会や手法を

駆使して従来から努めておりますが、県人会等の県出身の企業人との交流

の中でも智慧と人脈を活かしてトップセールスに努めてまいりたいと思

っている。只近畿県人会への案内がやっと来るようになりましたが、

関東の県人会の案内は町へは案内がありませんが、あらゆる機会を捉え

すだちの消費宣伝のトップセールスに努めてまいります。

再問

新府能トンネルの開通等により同

じ主要なすだち生産地として、佐那河内村との連携を密にした両町村の

トップセールスの手法も検討してはどうか。

本治 議員
森吉 議員



問

① 過疎化、少子化の中で、新たな町営住宅、若者定住住宅を造る可能性はあるのか。

この質問は三回目であるが、急激な人口減に向かっていく神山町において、あと十年後には学校教育において中学校、小学校では複式学級におちいる状況になっている。人口も二〇三〇年には今の半分の三〇〇〇人近くまでに減るといふ予測がでてくる。こうした中一日も早い公営住宅、若者向住宅を造るべきである。広島県安芸高田市（中国山地の山の



中)は若者向けに次のような条件をつけて入居をうけつけている。

十五歳未満の子がいる。地域の行事に参加すること。これだけで月三万円の家賃、二十年後には土地代の百数十万円を払えば持ち家になる。一戸当りの建設費が一六〇〇万〜一七〇〇万円で現在二十三戸が住んでいるとのこと。先進地のアイデアを取り入れ、町営住宅又若者住宅を造る考えはあるか。

答

常々他議員より指摘があり重要課題と認識している。

交通基盤も府能トンネル、養瀬トンネルの開通で徳島市、石井町への時間距離が短縮された。現在移住交流支援センター事業で、二十一年度も五世帯十一名の移住見込となっている。空き家を斡旋することで神山に住んでみたいという方がどれだけのニーズがあるかという事も参考にして考えていきたい。

問

② 公共事業の削減の中、町内土木業者の事業支援について

昨今、公共事業の削減によって土木業者の廃業、転職が増加している中、町発注の公共事業において、町外業者が落札し、下請業者に一部発注する場合、町内業者を優先的に下請業者として発注しなければならぬ

ということのような一文を契約時に結ぶことはできないか、こうした事が成り立てば少しでも地元業者の景気対策になるのではないか。

答

今年度も公共事業は一五%の削減と厳しい状況にある。が、発注段階で地元業者を一部委託下請をお願いするというのは非常に難しい。公平性、公正という事が、常に運用の基本となるので、おっしゃる事はよく分るが、この項目を加えることはむづかしい。

問

① 神山版の環境政策について
民有林における間伐の状況と、民間と行政が取り組んでいる、協同の森事業推進について質問いたします。



元幸 議員
木史 議員

二十年度の実績
搬出間伐が約22ha、切り捨て間伐が90ha、未整備間伐約28ha、治山の調整間伐で31ha。

答

年間約200haから300ha実施している。

協同の森事業として南野間の40haを候補地として要望。二十一年度方子の民有林と森林公園の間伐を行っている。(課長)

問

② 道の駅、神山温泉においてレジ袋NO運動を推進しては？

答

両施設とも町外の方が多いので、レジ袋廃止、マイバッグ推進には馴染まない。リピータの方とか町内の方については推進をしていかなければと思う。(町長)

問

③ ポイント制度を導入しては？

答

調査検討したい。

問

④ 道の駅温泉にレンタルサイクルを配備してはどうか。

答

先進地の実状は自転車車が紛失というケースが多い。実施は困難である。(町長)

問

⑤ 自然エネルギー活用について各地で取り組んでいる。

本町には神通発電所があるその復活について。

答

導水管が現在使える状況でない。又、機械類の整備についてもかなりの費用を要するので難しい。むしろ、ソーラーや、風力、水力が良いのではないかと考えています。(町長)

平成21年第3回臨時議会

第3回臨時議会は、平成21年11月26日に開催しました。

提出議案は、補正予算1件、条例の一部改正4件、人事案件1件を審議し、いずれも原案どおり可決、同意しました。

補正予算

一般会計補正予算（第5号）が提案され、1億7,879万円が追加されました。

主に新型インフルエンザ対策、8月～9月の災害復旧費の追加となっております。

町長等の給与に関する条例と同様
年間三・三月分から〇・二五月引き
下げ、年間三・〇五月分とした
ものです。

● 神山町議会議員の報酬、費用弁償
及び期末手当に関する条例の一部
改正

特別職の改正、勝名地区各町村の
対応を参考に関連する条例を改正し
たもので年間三・三月分から〇・二

補正予算

一般会計 41億7,694万円
(1億7,879万円)

※上段は予算総額（ ）内は補正額

主な内容

- 新型インフルエンザ予防接種助成金 672万円
- 現年発生災害復旧工事 1億6,875万円
(林道、農地農業用施設、公共施設)

条例制定・改廃等

● 職員等の給与に関する条例等の一部
改正

人事院勧告により国の取扱いを基
本として関連する条例を改正したも
ので、月例給の引き下げ(平均△〇・
二%)、自宅に係る住居手当の廃止、
期末勤勉手当の支給月数〇・三五月
引き下げたものなどです。(四・五〇
月分↓四・一五月分)

● 町長等の給与に関する条例の一部
改正

国の取り扱いを基本として改正し
たもので、年間三・三月分から〇・
二五月引き下げ、年間三・〇五月分
としたものです。

● 神山町教育委員会教育長の給与及
び勤務時間等に関する条例の一部
改正

町長等の給与に関する条例と同様
年間三・三月分から〇・二五月引き
下げ、年間三・〇五月分としたも
のです。

● 神山町議会議員の報酬、費用弁償
及び期末手当に関する条例の一部
改正

特別職の改正、勝名地区各町村の
対応を参考に関連する条例を改正し
たもので年間三・三月分から〇・二

五月引き下げ、年間三・〇五月分と
したものです。

人事案件

● 教育委員会委員の任命(同意)

神山町下分字今井一四一番地一
大家 清介氏

議会を傍聴

しませんか!

皆さんが選んだ代表が議場でどん
な発言をしているの自分目と耳
でお確かめ下さい。

どうぞお気軽にお越し下さい。

定例会は年4回(3月・6月・9
月・12月)に開かれます。

日程・手続き等は議会事務局へお
問い合わせください。

神山町議会事務局

TEL 676-11511

「TP2002」

次の定例会は

3月中旬です。

議会だよりの投稿を

募集しています。

身近かな「出来事」や「情報」など、お
気軽にお寄せください。投稿は自由で
す。提出された投稿は、本委員会にて協議
検討し承認を得たものとなります。

議会だより発刊月は1月・5月・8
月・11月の年4回を予定しています。

提出・問い合わせ先

神山町役場内 議会事務局

TEL 676-11511

IP 2002

名西消防組合平成二十一年度 第二回定例組合議会

第二回定例組合議会は、平成二十
一年十二月二十四日に神山町で開催
しました。

本定例会では、平成二十一年度一
般会計補正予算など四議案を審議し
すべて原案どおり可決、承認、認定
しました。

また正副議長の選任を行い、名西
消防組合議長に細井成富氏、副議長
に井上裕久氏が選任されました。

可決、承認しました議案は、次の
とおりです。

専決処分事項四件については、人
事院勧告に基づく条例の改正栗市町
村事務組合を組織する地方公共団体
の数の減少に伴う規約の変更の承認、
平成二十年度名西消防組合一般会計
歳入歳出決算認定は、歳入総額四億
七、四八六万円、歳出総額四億八、
五〇〇万円、歳入歳出差引額九八六
万円の認定、一般会計補正予算は、
一、九〇七万円を追加し、四億九、
七二七万円を可決しました。

高浜獅子舞

神領字西野間の高浜在所（十五戸）で保存している高浜獅子舞は、明治十一年頃、全国的に盛んであった獅子舞を当時の高浜地域の人たちを氏子とする権現祭り（例年旧二月一日）に奉納したのが始まりである。

獅子舞の演技は、阿川の松尾在所で行っていた獅子舞を習得し、これを参考に独自性を出すため工夫して現在の舞となったが当時の獅子は唐獅子であった。

その後、大正十二年に毛獅子を購入し、昭和三十五年頃まで続けられていたが道具の損傷などもあり休止していた。

獅子舞の復活は、御大師講などで話題となり平成五年に高浜在所で保存会が結成され、獅子を修復し、舞に精通していた高田勉氏の指導により会員の納屋で四ヶ月間（一九回）練習したが、長年休止していたため演技を思い出すには大変苦労したようである。しかし全員一丸となって練習に取り組み、ほぼ当時の舞を三十三年ぶりに復活し、土用の入りの日に地元の「庚申神」に奉納した。

その後、各地域のイベントなどへの参加依頼が多くあり出演機会も増えたため、平成七年に現在の獅子と太鼓等を新規購入し大変好評を得ている。

現在の状況と課題

現在主に活動している会員は、十一名で平均年齢は六十三歳と復活当初よ

り高齢化している。最近において三代・四十代の会員が練習に参加しているが、時間的に制約を受ける職業や高齢、病気などで参加出来ない人もあり運営に大変苦労をしている。

練習は、毎月一回高浜集会所で行っているが、九名の構成で行う練習は全員の参加が必要のため、各自参加出来るよう努力している。

定例行事として毎年土用の入りの日「庚申神」に奉納。またホテル四季の里より依頼を受け正月（一日と二日）に出演している。

これまでの主な活動

神山町芸能大会

神領芸能大会

ホテル四季の里

町・県の行事

上一宮大栗神社等

その他

演技の構成

拍子木（一人）、獅子（雄雌四人）、

大太鼓（二人）、小太鼓（二人）、三番

叟（子供二人）

演技題目

○見合い

雄と雌が見合いの舞をする

○中曲

雄と雌が互いに虫取りなどのしぐさをしながら舞をする

○地神楽

雄と雌が互いにじゃれあいながら

舞う

○式三番叟

眠っている獅子を三番叟が起こして舞をさす（現在子供が少ないため休止）

課題

復活当時は、会員の平均年齢が五十五歳位であったが、元気な会員が多かったので復活以来つづけてこられた。しかし高齢化の進行は高浜在所においても同じであり、今後ますます進むと共に病気などで獅子舞を演ずる人数が確保されていくか不安がある。このため近距離にすむ後継者などに参加を呼びかけるなど後世に残せるよう努めていく必要がある。



神山町文化財保護審議会と郷土資料公文書収集について



神山町文化財保護審議会
会長
稲飯 幸生

蒐集整理年譜

- 昭和30年3月31日
五村合併神山町となる
- 昭和36年6月～昭和41年12月
神山町郷土研究会発足
- 昭和37年4月1日
神山町文化財保護委員会発足
(五十一年度より文化財保護審議会と改称)
- 昭和42年度～昭和59年度
町役場本庁支所新築改築により旧村役場文書の蒐集を始める
蒐集方法
 - 一、旧役場庁舎の倉庫に積まれた文書の整理
 - 二、神領小学校校舎の一部教室に運搬(町職員の協力あり)
 - 三、教室に運搬された文書の分類
 - 四、箱詰作業
 - 五、ダンボール箱に書名カード添付
 - 六、書架に旧村毎に収容
 町外からの協力者として当時の郷土研究家の飯田義資・金沢治・藤丸昭などの方々が参加された
- 昭和58年11月12日
神山町郷土資料館オープン
神領小学校の1棟利用
- 平成18年5月26日
国立国文学研究資料館研究員三名が来訪。「旧村役場文書」が全国的にも希有であるとの評を受ける
- 平成20年
徳島県立文書館職員に依る展示文書の点検整理
(数回にわたり一回四名～五名参加)
- 平成20年～21年
寄宿舎を資料館への改造事業
- 平成21年3月26日
旧資料館の資料を新資料館への移転事業終了
- 平成21年4月1日
新資料館開館

神山町郷土資料館

一、旧役場文書の収集の経緯と収集資料の概要

- ・ 昭和三十年三月に五か村合併により神山町発足しました。
- ・ 昭和三十六年六月に神山町郷土研究会が生まれましたが、この活躍が郷土資料館の成立の原点
- ・ とおもいます。この会は昭和四十一年十二月まで続きました。
- ・ 会員二十一名、会報を十回発行し町内の民俗・歴史の实地踏査が主たる研究テーマでした。
- ・ 昭和四十二年から五十九年にかけて町役場本庁・支所の改築が行われましたが、そのとき旧村役場に保存されている明治以降の役場文書の処理について、文化財関係者に問い合わせがありました。文化財審議会や郷土研究会で必要無ければ焼却することでしたが、郷土研究者たちの意見によりもらい受ける事になりました。
- ・ 役場の改築は本庁移転(四十二年)、鬼籠野支所(四十六年)、上分支所(五十四年)、広野支所(五十五年)、下分支所(五十九年)です。その間に旧役場文書を神領小学校の一教室を借り受けて運搬しました。その労力は大了もので約十年の間に大勢の人が関係しています。
- ・ 教室に運搬された文書の分類も大きな仕事で町で若干の人員費を支出していただき、図書分類法に従って箱詰め作業が行われました。これも約八年間を要し



ています。

二、郷土資料館の現状と課題について

資料館については次の事が指摘されている。

- ・ 文書格納するダンボールの箱を少し強いものにする。
- ・ 雨漏りする可能性のある場所があるのに注意する。
- ・ ダンボール一箱の文書量が多すぎる。
- ・ 民俗の部屋では品物の寄贈者の名をはっきりさせる。

- ・ 合併後の文書の整理をする。(以上、県立博物館・文書館職員)の指摘)

三、その他の事項

- ・ 役場文書の保存は長年月にわたる大勢の人々によっておこなわれたので、個人氏名は略しました。
- ・ 資料館は教育委員会で管理していますが、できれば専任の学芸員のような人が常駐しておれば便利とおもいます。(希望)

覗いてみませんか？

神山町郷土資料館

青雲寮を改装してこの春から新たに郷土資料館がオープンしています。本項で紹介した旧村役場の公文書や歴史的価値の高い資料、襖絵など数々を展示、保管していますのでぜひご覧ください。

見学したい方はお気軽に教育委員会までお問い合わせください。

電話(088)676-1522 IP 2009
kyoiku@town.kamiyama.lg.jp



取材を通して

今、神山町の郷土資料旧村公文書収集資料が注目されている。全国的にも希有であり町が誇りうる価値のある資料が、どの様な経緯で蒐集整理されたのか、審議会会長に蒐集年譜と現状課題等、質問方式でお願いした。この先人達の発想と苦勞により蒐集された資料を今後の町づくりにどの様に活かすかが私達に課された宿題である。

行政視察など報告

第五十三回

町村議会議長

全国大会

平成二十一年十一月十一日に東京のNHKホールで標記大会が開催され参加しました。鳩山総理大臣、衆参議長、総務大臣等の祝辞に続き、永年在職議員が表彰されました。また「バカの壁」等の著者の東大名誉教授の講演もありました。その後、大会決議（宣言）がされ、閉会した。宣言文の概要を記し報告に替えさせていただきます。

国土の大半を占める農山漁村は、食糧供給、水源涵養、国土保全など国民の生命を支える重要な役割を果たしている。

そして、これまで、全国の多くの町村は、住民とともに国土を支え、伝統・文化を守り、自然を活かした地場産業を創出し、個性あるまちづくりを進めてきた。

しかしながら、昨年の一〇〇年に一度の経済危機の影響により、わが国の経済・雇用情勢は依然として厳しい局面が続いており、特に地域

経済は更に悪化の傾向を強めている。また、国が推進する「平成の大会併」によって、多くの町村は合併を余儀なくされ、平成元年には、二、五九〇の町村は、平成二十年末には、一千を割るに至り、四万三千人余の議員は、現在、約一万三千人になり、今まさに、町村は大きな転機を迎えている。

このような状況を打開し、真に地域を再生するには、基礎となる町村が、地方分権化の中で、自治能力を高め、都市と農山漁村が「共生」しうる社会を強力に進めていくことが重要である。

この度、「地域主権」の確立を掲げた新政権が発足したところであるが、全国町村の声に十分耳を傾け、思い切った地方分権を實行されることを大いに期待している。

我々議会は、本日ここに、「第五十三回町村議会議長全国大会」を開催し、このような町村の危機的状況を乗り越え、真の分権型社会を創造するため、果敢に行動していくことをここに誓う。

以上の宣言を心にきざみ、初心にかえり、今後の議員活動に取り組みことを決意した次第であります。

（議員 坂口 一之）

佐那河内村議会と

研修を通じ

交流を深める

昨年十一月二十日ホテル四季の里において、佐那河内村議会と本町議会によるそれぞれが持つ課題をテーマに議員研修会を開催した。

研修の柱である講演では、徳島新聞社 編集委員 門田 誠氏を講師に招き「地域が持つ可能性と課題」と題しての講演。

県内の取材を通して町村の元気づくりは産直市で家庭菜園で楽しみながら現金を得ることにより、地域との輪を広げ活性化へと発展しているなどの話に真剣に耳を傾け、交流会



では、各議員から地域活性化に向けての熱き意見が飛び交った。

（議員 森本 吉治）

平成二十一年度

各期成同盟会の開催、

要望活動・本年

事業予算の報告

平成二十一年十一月二十六日、各期成同盟会並びに関係市町村が合同で、国土交通省、財務省、自民党本部、徳島県選出国會議員に県選出国會議員の案内で二十一年度予算確保の陳情を行いました。県土整備部の強いご指導と関係市町村の一致結束した協力により要望活動が出来ました。予算は神山町関係のみ。

四国横断線改良促進期成同盟会（国道一九三号・主要地方道志度山川線）

海部郡海陽町より吉野川市を連絡する国道一九三号及びさめき市と阿波市との県境より吉野川市に連絡する主要地方道志度山川線の改良を促進し、奥地交通の整備充実を図る事を目的として、海陽町、那賀町、神山町、吉野川市、阿波市により組織されている。平成二十一年十月二十九日総会開催、国道一九三号吉野川市―海陽町の早期改良整備予算獲得、主要地方道志度山川線の国道昇格と

全線の改良整備の予算獲得など盛り込んだ決議もって要望活動を積極的に行う。倉羅バイパスの早期着工。

国道四三八・四三九号並びに主要地方道山城東祖谷山線改良期成同盟会

徳島市から美馬市經由、三好市京柱峠を通過し高知県に至る国道四三八・四三九号並びに山城東祖谷山線の改良を促進し、関係市町村の交通、産業、経済等諸般に亘る発展を目的として、徳島市、佐那河内村、神山町、美馬市、三好市により組織されている。平成二十一年十一月二日総会開催、沿線地域唯一の幹線道路であり住民の生活や文化、産業、医療を支える四国の脊骨・生命線ともいえる役割を果たす重要路線であることを強く要望、早期改良整備促進の予算確保、県、四国地方整備局、国土交通省、財務省、の関係機関に強く要望活動を行う。

二十一年事業予算 国道四三八号
上分バイパス当初予算二五〇百万円
補正予算二八〇百万円

国道一九三号倉羅トンネル開削促進期成同盟会

国道一九三号倉羅トンネル開削工事を促進し徳島県の交通産業経済文化の発展に寄与することを目的とし、吉野川市と神山町により組織されている。平成二十一年十一月五日総会開催、国道一九三号倉羅トンネル開削工事の早期完成にむけて積極的

要望活動を行う。

二十一年度事業予算 倉羅バイパス
又美郷側一〇〇百万円 名ヶ平バイパス一〇〇百万円

主要地方道神山鮎喰線整備改良促進期成同盟会

神山町の国道四三八号との交差点を起点として徳島市の国道一九二号を結び、県都徳島市と豊かな自然や歴史文化を持つ神山町の交流発展に住民生活や医療を支える命の道役割を担う重要な幹線道路である。徳島市・一宮町・入田町・神山町で組織し団結を図り関係行政へ陳情し改良整備実現を促進すること。

平成二十一年十一月六日総会開催
平成二十一年事業予算 養瀬バイパス
一八〇百万円 広野工区一〇〇百万円

主要地方道石井神山線改良促進期成同盟会

石井町の国道一九二号との交差点を起点とし神山町の国道四三八「神領」を結び重要な幹線道路あり、石井町と神山町の交流発展に不可欠な道路である。本線の改良工事を促進し徳島県の交通産業経済文化の発展に寄与することを目的に石井町と神山町で組織されている。本路線の継続促進について関係機関に要望、県道平島国府線から県道石井神山線起点の新工区の事業、採択及び神山鮎喰線に結ぶ道路網の整備促進「行者野・広野橋等」平成二十一年十一月

十日総会開催。

二十一年事業予算 歯の辻工区緊急地方道路整備事業六四・六百万円
県単事業二一・八百万円局部改良(緑越)二〇年度予算 本名宮分六〇百万円 落石防止四〇百万円

主要地方道鴨島神山線改良整備促進

吉野川市鴨島町字中郷から神山町阿野字本名までの延長十五・一km・昭和五十七年主要地方道に認定されたが未改良区多く早期改良整備の促進急務である。

二十一年度事業予算 神木本名八〇百万円(緊急地方道整備)と二〇百万円(県単事業・局部改良)

森林基幹道大川原丸線開設期成同盟会

佐那河内村大川原の林道元山槻地線を起点に、上勝町高鉾山、神山町を經由し、稜線を通り上勝町生美の町道剣山線に至る延長十七km、幅員四mの森林基幹道。周辺の森林資源開発と自然景観型観光ゾーン形成の中核的機能を図るために上勝町、佐那河内村、神山町により組織され活動している。平成二十一年七月二十七日総会開催。

平成二十一年度事業予算 八五百万円(森林基幹道整備事業)

森林管理道倉羅川井峠線開設期成同盟会

旧美郷村から神山町を経て旧木屋平村に連絡する最短ルート(約)の森林管理道で全延長十km、幅員四mの林道、森林資源の開発と、地域の主要道や

作業道等との連絡が出来、有機的な路網形成が可能となり災害時の国道等の迂回路として利活用できるよう早期完成に向け活動している。吉野川市、美馬市、神山町で組織している。平成二十一年十月八日総会開催

平成二十一年事業予算一〇〇百万円(森林管理道整備事業)

道路は、豊かで安全な暮らしの実現に活力ある地域社会の形成を図る上で、最優先して整備すべき、根幹的社會基盤であります。特に、近年急激に進展する高齢化への対応や都市と地方の地域格差是正を図るためにも道路整備は一層重要であります。今後尚一層の改良整備促進活動が展開されますこと願ひ、報告と致します。平成二十一年十二月

(議員 森 彦富)

第二回

市町村議会議員

セミナーに参加

平成二十二年一月七日・八日の二日間、全国市町村国際文化研修所(滋賀県)において、開催された「第二回市町村議会議員セミナー」に二八四人の全国市町村議員が参加。真剣に耳を傾け、厚い質疑等が行われた。

(議員 細井 成富)
(議員 高橋 和男)

読者からの寄稿

まちづくり事業に思う



下分まちづくり実行委員会
委員長

南本芳男

ワァ綺麗やなァー これは大型飾りでエー なかなか大変じゃったじゃろう 見物客のねぎらいの言葉があつた飾りつけの苦勞を喜びと、嬉しさに変った。七夕飾り実行委員のメンバーはお互に感想を語り合っている。今年も大勢の人が来てくれたでエ。また来年も頑張ろうなァ。第9回目の下分七夕まつりの反省会である。活気のある町になれば、一時期でもにぎわいの町を作れたら… そんな想いを持っていながらも何もしない数年が過ぎていたと思う。下分地区チャレンジ徳島（現・神山）推進協議会のメンバーになってから、神山町全域に7月の七夕かざりが道路沿いへ短冊が飾られたのが始まりである、3年間は普通の竹に短冊を飾って昔ながらの七夕かざりであった。メンバーの一人が、仙台の七夕飾りの様な飾りが、あればもっと派手なんちがうやろか…今迄の短冊飾りに加えて、もっと大型なかざりがあればなァーとつぶやいたのが大型飾りのきっかけである。縁あって平塚市からの七夕飾りを無償で頂く事ができてから6年になりました。『七夕の郷、下分』と大きく書かれた看板が栗生野と安吉に誇らしく建っているが、下分地区の皆さんのご理解とご協力を頂いた大きな印（しるし）でもあります。

地域の絆、最近よく聞く言葉である。空き家が年と共に増えて、65歳以上の方が50%を越えれば限界集落と言われるそうであるが、神山町も危ないのかも！ 下分地区は春の明王寺のしだれ桜まつり、七夕まつり、お盆に催される夏まつり、と秋の運動会など沢山の催しがあるが、すべて地域の人達の手で開かれていて、まさに地域力である。そんな地域力はどこから生まれてくるのだろうか。高齢化の進む中であって、住民主体とする活動の場を作り、そこで自前で作品を作ったり、一緒に共同の作業が出来る。足りない物があればお互いが提供したりして一つの物を仕上げる。あんたの力が必要なんじゃけん手伝ってくれんかい。そんな会話のふれあいにより作られてゆくのだと思う。下分地区まちづくり事業は、普段は話す機会がない、地域の人達と一緒にやれる世代の違う、いろんな人が気さくに声をかけあってゆける場所作りを心がけてゆく事が必要であろう。竹を切る者、枝を打つ人、それを運ぶ係、人それぞれ自分に似合った作業をしている姿はみんな輝いて見える。

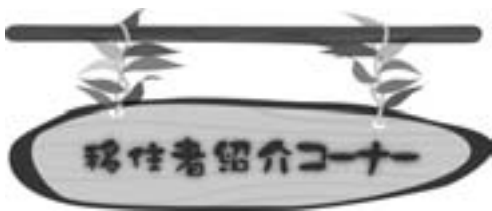
器用な人は自作の飾りを作った。電球の点検や配線を考えている女性陣も短冊や小物の飾りの準備と分別に懸命であり、作業中の接待係は大変であろうと思うが皆、汗を流しながら活気にあふれている。下分地区全体が七夕まつり気運となって盛り上げてゆくのを感じられて、みんなの熱気が伝わってみんなの心を駆り立ててゆくので不思議である。

「まほろばの里事業」の助成金を受けるまでは、下分地区の各種団体や協賛金等で運営資金としていたが、助成金により各種備品等を揃える事が出来ました。

自前の資金では限りがあり助成金を受けることで安定した運営が出来ます。しかし、それも今年度（22年）で終了である。

「にぎわいのある町づくり事業」は単に賑やかであって、人が集まるだけでなく、一つの事業やイベント作りによって、活気のある町・住民とおしの交流が開けて、人と人との絆が生まれることの大切さがあると思います。年々と寂しくなってくゆくであろう地域の閉そく感を、地域の皆が楽しくしてゆく事が出来る町政を作って下さるよう、お願いします。

● 議会だよりにご投稿いただいた方々、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。●



下分字粟生野

田中 武晴さん (68歳)
ご一家



I 簡単な履歴

我家は私、妻、娘一人の三人家族です。出身地は私と娘は東京、妻はお隣り香川県です。妻は専業主婦で今まで家事万端を仕切っています。娘は大学卒業後数年は会社勤めをしましたが、その後はマイペースで家事を手伝っています。

私は東京オリンピック開催の年に、A新聞東京本社に入社、以後人事、総務部門の業務を担当してきました。北九州と名古屋に転勤し、定年直前に大阪の関連会社に転勤、2005年12月に退職、年金生活者となり翌年2月に神山町に転住してきました。

II 移住の経緯

我家は転勤先の大阪生活から、東京の自宅を空き家のままにして神山町の貸家に移ってきました。都会暮らしから田舎暮らしに切り替えた特別な理由はありませんが、定年後は暫しゆったりと静かに生活したいと思っていました。86年5月15日付新聞の切抜きがありますが、その中身は都塵を捨てて田園に戻っていく人の悠然たる心情を感じさせる短歌です。多分私はその頃からいずれは晴耕雨読の田舎暮らしを望んでいたようです。

III 神山選択の理由

退職後どこに住もうかと1、2年ほど色々検討しましたが、徳島市内に妻の姉が在住していること、山、川に加えて温泉もある自然豊かな場所であること、枝垂桜や神山アーティスト・イン・レジデンスの幟、喫茶店、道の駅、神山温泉、ホテル、コンビニ、役場、寄井商店街、医療機関もいくつかある等々で、山村のわりには生活しやすく、活気のある積極的に活動している町と感じました。



粟生野在所の雪景色 (2010.1.14)

また家主さんや初めて貸家家屋を案内、説明して下さったご夫妻の優しさや親切さにも魅せられ神山行きを決めました。

IV 住んでみての感想

今年で神山生活5年目です。まずはこの4年間、さしたる心配事も無く健康で日々楽しい生活を送ることが出来たのは、近隣の皆さんのお力添えの賜物と感謝しています。都会ではほとんど失われてしまった助け合いの心(助けてもらう一方なので気が引けますが)の尊さを再認識しています。

山川草木、花鳥風月など自然の素晴らしさは感動ものです。都会にいと、こうした自然の良さや癒しなどを求めて旅行に出かけている訳で、それが日々の生活の中で満たされるとは…。感性が幾分磨かれたかもしれません。

広々とした畑での農作業は心身を豊かにしてくれています。我家では妻と娘が格別野菜作りをエンジョイしています。無農薬でみずみずしい野菜の美味しさを、地産地消で毎日味わえるとは幸せの一語です。

買い物の若干不自由さ、街中までやや遠い不便さはありますが、「足るを知る」修養と割り切っています。

「神山町粟生野に移住して良かった」としみじみ思っています。

V 神山町の現状と課題

神山町在住わずか5年目の若輩です。まだ神山町の実情等をあまり理解や把握をしていませんので、「現状と課題」を述べることは出来ません。ただ一般的にいわれることですが、地域が発展すると色々な変化、改革が伴います。国や県はこれからは観光立国を目指すと言っています。神山町にとっては願ったりのことと思いを期待しています。しかし町の発展が私がこの4年間で知った近隣の人が持つ助け合いの精神や人情、お大師講のような集まりと連帯意識、更には自然への愛情と共生等々を消さないように願うものです。

取材後記

田中さんご一家は敬虔なクリスチャンですが来町されると同時に粟生野在所の大師講にも入れられ、在所の従来からのまつり事や冠婚葬祭、共同作業等に参加されています。ご一家で四国八十八ヶ所巡拝等土地の習慣風土に溶け込まれて、ご一家なりの充実した毎日の様に思われます。娘さんは英語が堪能でお家のすぐ前の竹藪が昨年暮のアーティスト・イン・レジデンスの製作展示場所となり招待作家のキャメロン、ホッキンソンさんと支援者との通訳をされる等お世話になりました。ご一家の移住は土着の私共にとって集落の絆や習慣、歴史等々の価値を改めて再確認させてくれる切掛けにもなっています。

出初式

●平成22年神山町消防出初式挙行される●

1月10日（日）神山町総合運動場に於て消防出初式が挙行されました。

少子高齢化人口減少が進行する神山という地域社会で団員の確保の難しさや多様な課題を抱えた中での消防団活動に深甚なる敬意と感謝を強く感じる式典でありました。消防関係者の方々の日頃のご尽力により、町民の生命、財産、安心が守られていることを改めて再確認する機会でもありました。全議員が出席し山本充良議長が代表して祝詞を述べました。



●2010年神山町成人式挙行される●

1月11日（月・成人の日）神山町農村環境改善センターに於て成人式が挙行されました。

成人該当者は平成生れ初代であり、船出される社会は未だかつて日本が経験したことのない少子高齢化、人口減少が進行し大きな変革と混迷の渦中にありますが新成人の未来に展望と確かな歩みが築かれることを祈念しお祝いしました。式典には全議員が出席し、山本充良議長が祝詞を述べました。

成人式

民主党新政権の分権型陳情への改革

民主党新陳情システムについて、民主党徳島県総支部連合会より、十二月十五日、神山町役場で説明会が開催されました。

自治体や各種団体からの陳情を党幹事長室が一括集約する新たな陳情ルールとなっております。

目的

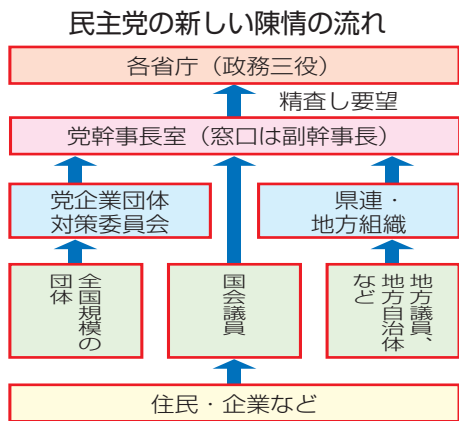
一、政官癒着の排除と利益誘導型政治からの脱却

二、分権型陳情で霞ヶ関詣でを一掃

三、国の行政刷新と地方行革に寄与

四、透明性、公平性を確保する陳情

処理



表紙写真説明

「案山子」が賑やかに迎えてくれる、ほのぼの阿川の里

撮影 松浦一郎氏（神領字北）

本紙第二号で紹介した阿川地区二十八歩の会（会長福原幸男）が心の底からほのぼのとなる活動第二弾をやってくれた。第二号本紙で取材した時、夢を熟く語ってくれた会員の口調から、これからは何かをやってくれるだろうと密かに期待していただけに的中して本当にうれしい。殺伐な世相の中、又昨年暮には強盗事件も発生した阿川地区、二十八歩の会の今回の行動第二弾が本年の阿川地区活性化の始動、潤滑油となる事を確信し、同会のさらなる活動の継続を期待する。

表紙文字 稲飯幸生氏 書下分字 舟

編集後記

新春のお慶びを申し上げます。昨年は、百年に一度の経済危機、新型インフルエンザの流行など世界中が未曾有の脅威に直面する一方、わが国では、政権交代という歴史的な変革の一年でありました。

そうした期待と不安が交錯する中、本町では、待望の養瀬トンネルが開通しました。今後交流人口の増加、通勤、産業、経済活動等の向上に大きく期待されているところです。

議会だよりの発刊が今回で四号となりましたが、いろいろと指摘の点を反省検討しながら議会活動をできるだけ、分かりやすく忠実に伝えたいと考えておりますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

（榎本雄一議員）